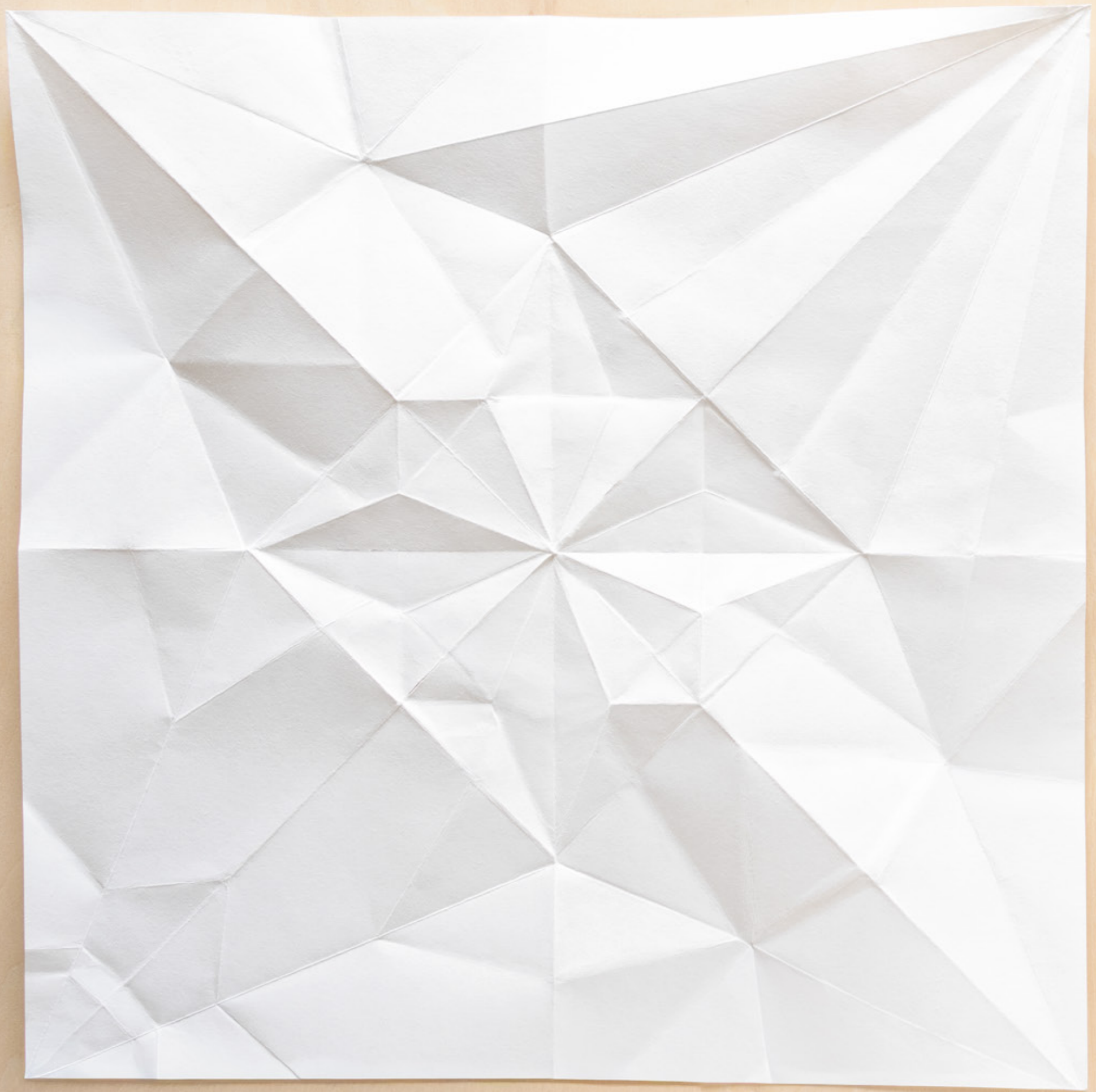




Port Folio

Koyama Koshiro Design Works 2025



小山 倖司朗

多摩美術大学 美術学部
生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 3年

経歴：
2003 9月27日 生まれ
2020 デザインとアートの教室 りんごの森 入塾
2022 長野県長野東高等学校 卒業
2023 多摩美術大学
生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 入学
2025 同大学 第三学年在学中

スキル：
Photoshop Illustrator Lightroom Classic
Autodesk Fusion Rhinoceros

私にとってデザインとは――

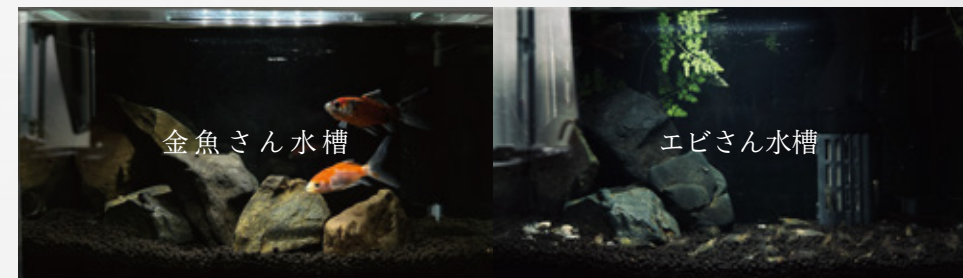
デザインは、大きな変化を起こす力だけでなく、
ほんの小さな気づきで、人の心を動かすことができます。と思っています。
静かで控えめでも、使う人がその違いを自然に感じ取れる。
そんなデザインを、ていねいに積み重ねていきたいです。

実は体育会系!?



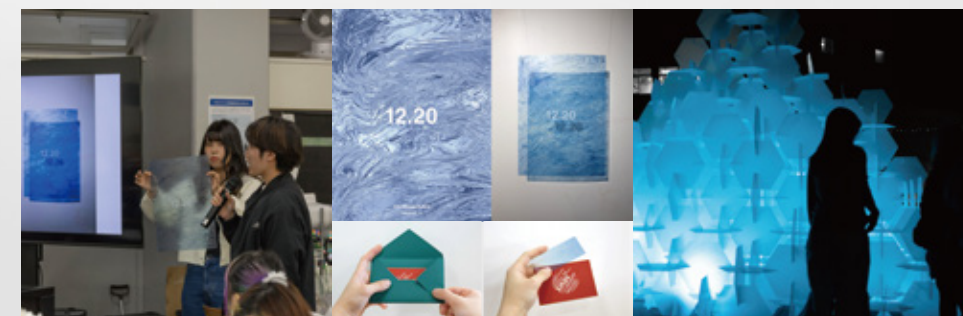
高校では新体操部に所属していました。

心の癒し



日々の疲れは眺めて癒します

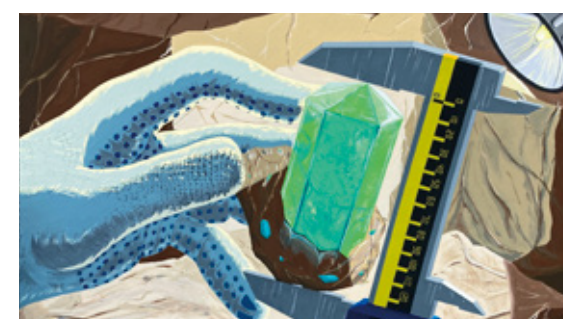
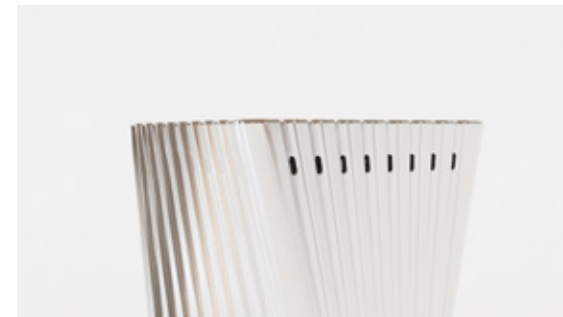
サーバントリーダーでグループ全員を主役に。



※2023 Xmas reception



Contents.



01 時華

時間の流れを、かたちで魅せるアートプロダクト。

02 POUR ESSENCE

料理の最後を彩るシーズニングボトルの提案

03 NAZOKARA

3色同時にどんな方向にもぬってかける色鉛筆ホルダー

04 Other work

Apis

小さな相棒と手ぶらで楽しむ1.5人旅

あしあと

高齢者に向けた、在宅中の安心・見守りサービス

デッサン・色彩構成

時

t—o—k—i—h—a

華

時間の流れを、かたちで魅せるアートプロダクト。

制作期間

2024.04-05

使用ツール

Ai/Ps/LrC/Fusion

使用素材

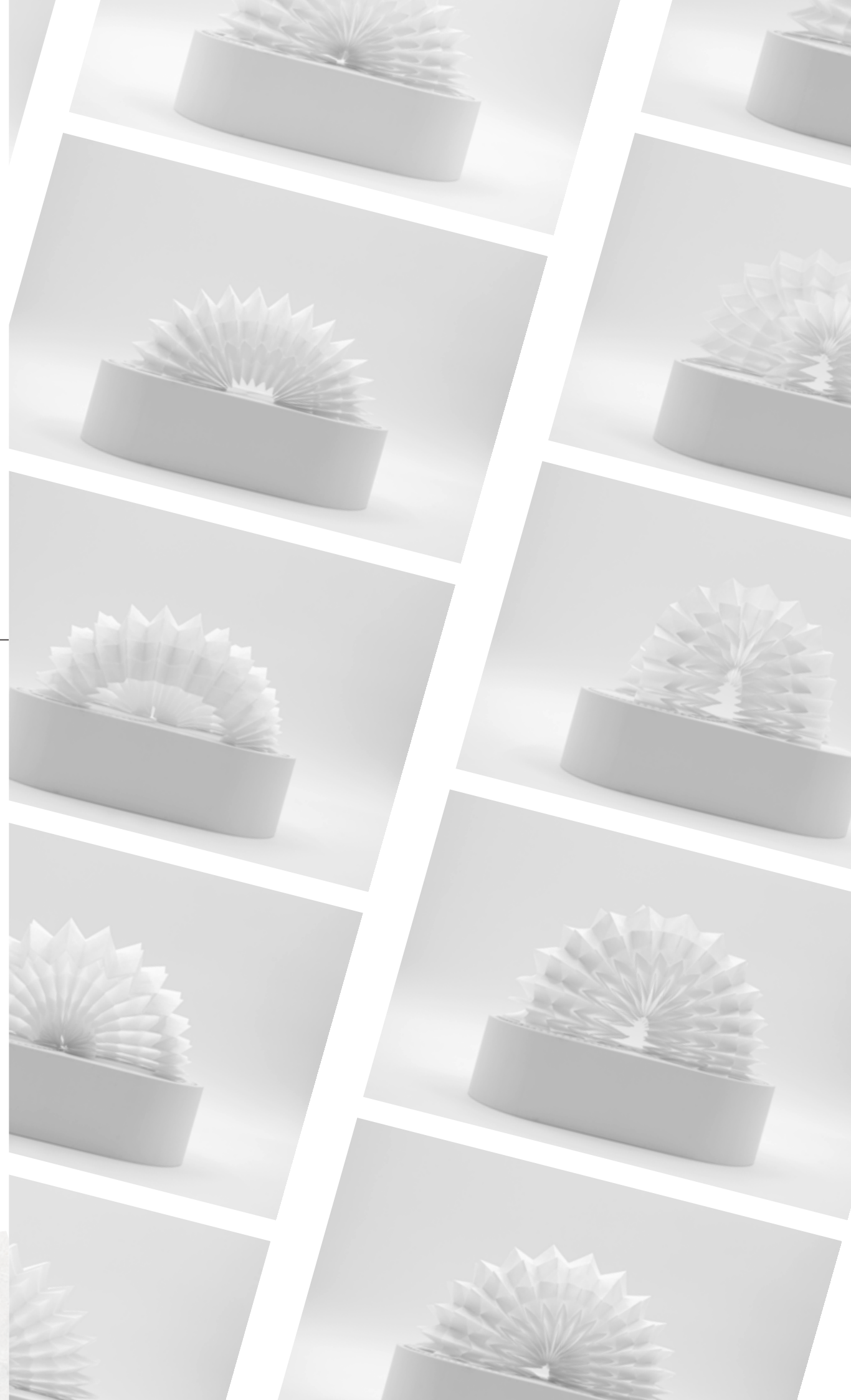
プラスチック合成紙・PLA・アナログ式タイマー



Introduction

時を、華に変える。

時は、ただ流れるものではない。その一瞬一瞬に、かすかな輝きと秩序がある。
「時華(ときは)」は、折りの構造と回転の動きによって、時間が咲き、変化し、
消えていく瞬間を可視化するタイマーの機能を持ったアートプロダクトです。



01
時華

02
POUR ESSENCE

01
|
02

03
NAZOKARA

04
Other

「マジェスティック」という、時間の姿。

“Majestic”—荘厳でありながら、儚い。

この言葉に内在する静かな力を、折りのリズムと光の反射で表現。

機能としての「タイマー」を超え、時間の尊さと美しさをかたちにしたアートピースです。



実際に動く様子はこちらから。



時華（ときは）という名前の由来は、タイマーという時間の要素。そして万華鏡のような華やかな印象から「じか」という元の意味である「その季節にしか咲かない花」という言葉を置き換え、「その瞬間にしかみられない美しさ」になぞられました。

01
時華

02
POUR ESSENCE

03
|
04

03
NAZOKARA

04
Other

Process

折で時間を刻みたい。

開くけど、閉じない...

+

ジャバラの開く感じを
一周させたら？



=

折幅・素材・ヤス調整

折って追って

回転させて螺旋状？



折ることで平面だったはずの紙は立体に。
静的な状態から動的へと様変わりする姿に着目し、
折を起点に空間を美しくするタイマーの形を折って、追っていきました。

トルクのはどのぐらい？

歯車の間隔は？一つで動く？



構造は？なぜ動く？



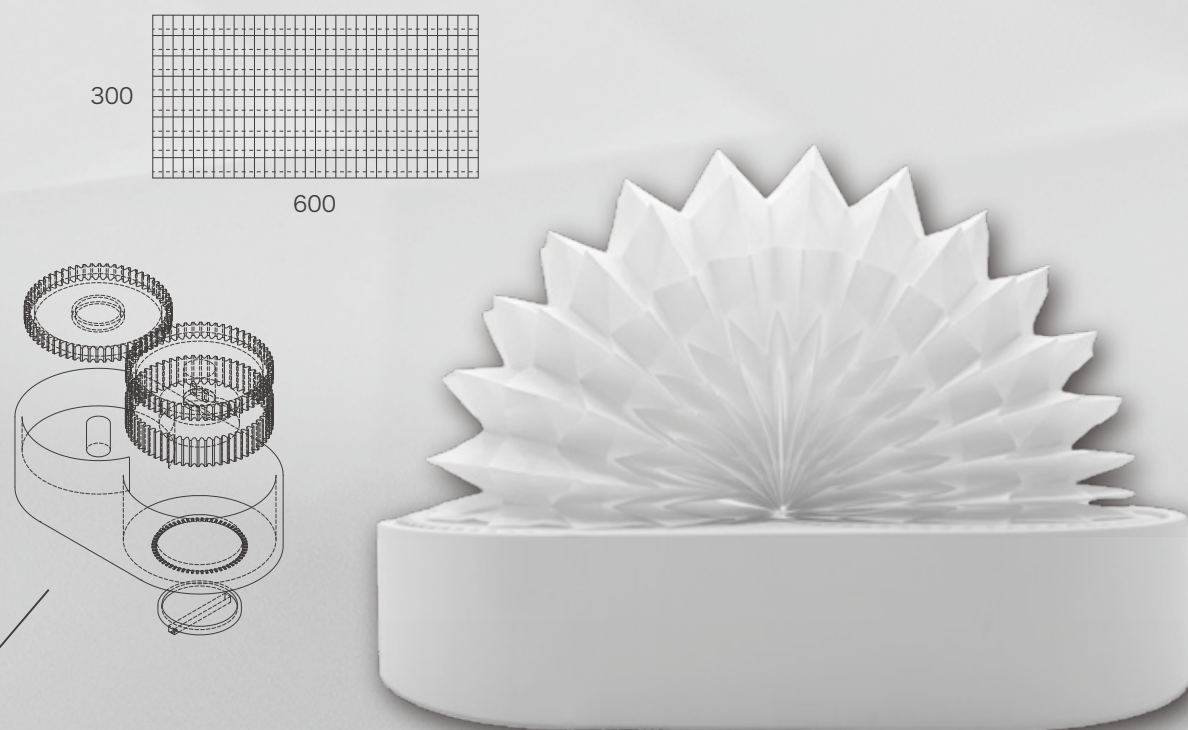
時間を、体験へとひらく。

「人は、時の流れを測るのではなく、感じる。この子どものまなざしが、それを教えてくれました。」

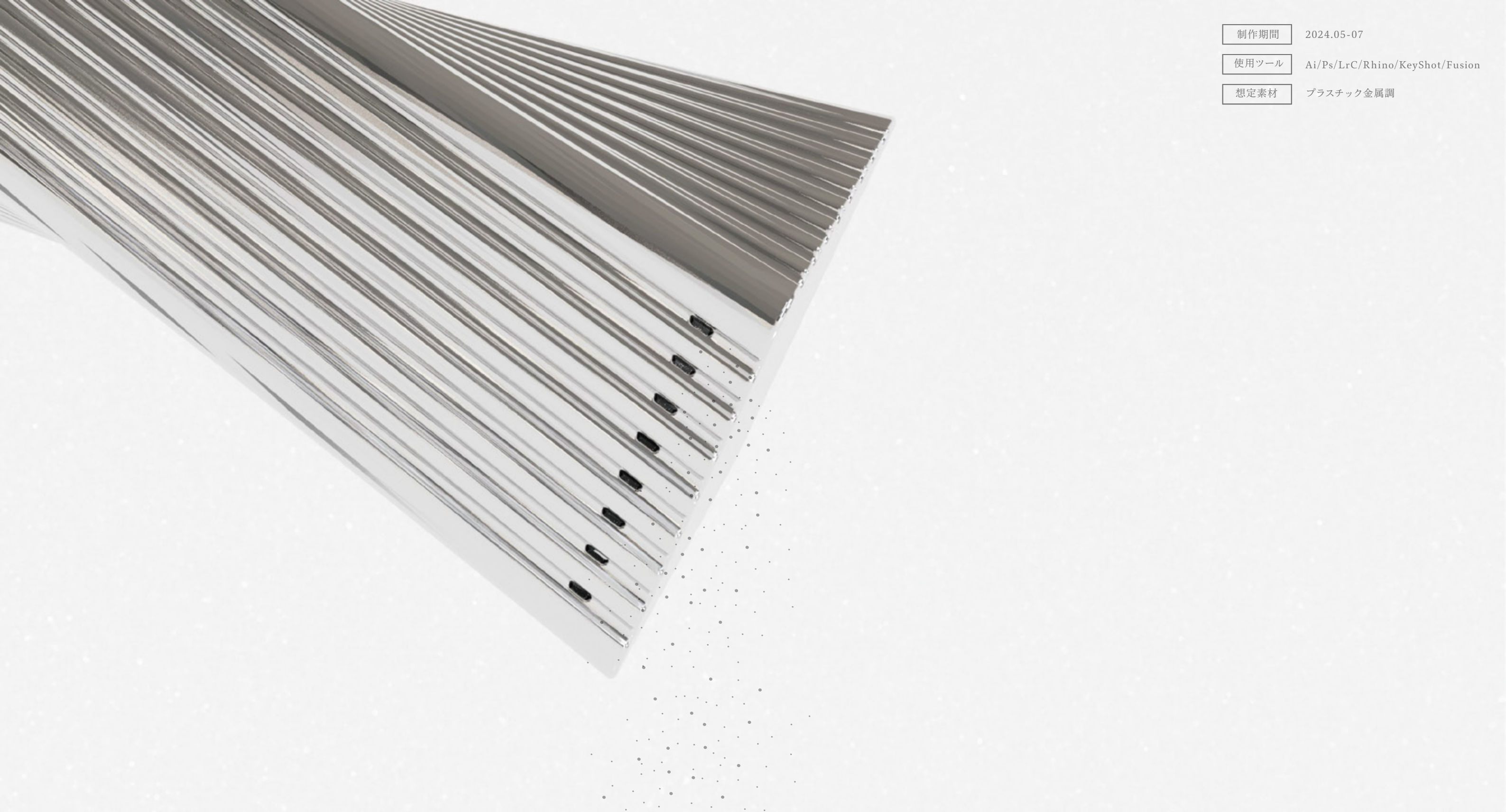
開催日時：2024年8月10日（土）、11日（日祝）会場：東京ミッドタウン アトリウム（ガレリア B1）〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7-1



MIDTOWN SUMMER 2024 WORKSHOP 多摩美術大学 TUB による夏の特別ワークショップ
「描いて動かす！紙の歯車カードを作ろう！」の会場にて展示された。



Final model.



制作期間

2024.05-07

使用ツール

Ai/Ps/LrC/Rhino/KeyShot/Fusion

想定素材

プラスチック金属調

POUR L'ESSENCE

料理の最後を彩るシーズニングボトルの提案





Concept.

Épice Élégante 指先から生まれる、味と美の調和。

料理は芸術。塩や胡椒の一振りにも、意識と美しさを宿す。

このボトルは、フレンチレストランの繊細な一皿を完成させる“最後のタッチ”を、エレガントな所作で支えるプロダクトです。

01
時
華

02
POUR ESSENCE

07
|
08

03
NAZOKARA

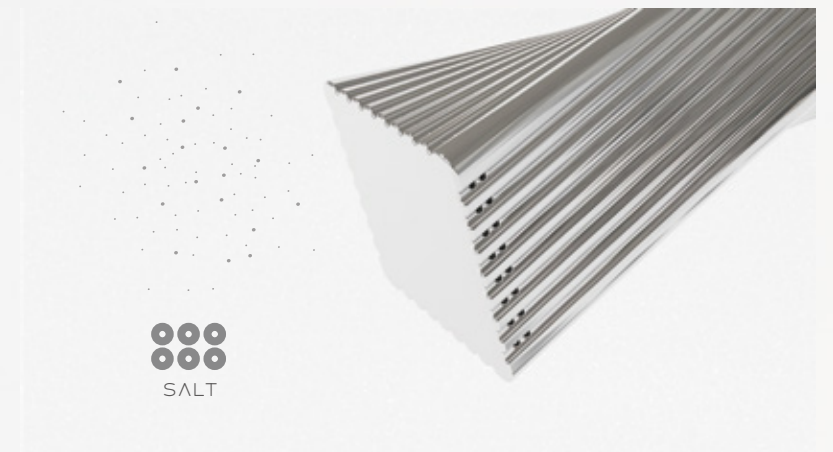
04
Other



一振りに、余韻を。

シェフの手の動きは、味覚を超えて“所作の美”を作り出す。本プロダクトは、その一瞬の所作を美しく見せるための形状を追求。

“直感的に使える”という健康志向の利便性を保ちながら、素材・形・光の反射に上質さを込めています。



つまみ方の検証



type01



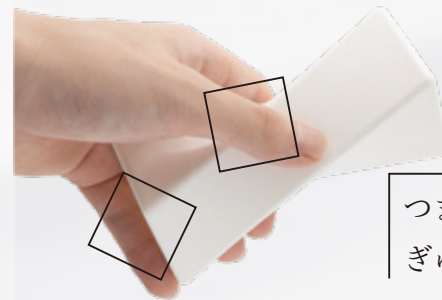
type02



type03



type04



type01

つまみやすいが、
ぎゅっと握た時に角が食い込んでしまう。

type02

シリコンの性質上、
ぎゅっと強く握った時に潰れてしまう。



type03

type01 の半分の太さのモデル。
つまみやすいが振り掛ける時の長さ調整が必要。

type04

type03 の半分の太さのモデル。
type03 よりもつまみづらくなってしまった。



Final model

逆さまにしなくても
正確に出る。

指にフィットするねじれ。

底面に蓋をつけ、
プリミティブな印象に。

type01 ・ type03 の中間の太さ、長さを調整し
つまみやすく振り掛けやすい形に。

今後の展望



POUR ESSENCE は、料理の所作を美しく見せるために生まれたデザイン。
人の手の動きや光の反射、その一瞬に宿る“エレガンス”を形にしました。

今後は、食の時間そのものを豊かにするテーブルウェアシリーズへと展開を考えています。
「使うたびに美しくなれる道具」その体験を、さらに多くのシーンへ。

「ぬってかいて、不思議発見」

NAZOKARA

子どもたちに向けた3色同時にどんな方向に動かしてもぬってかける鉛筆ホルダー

uni
MITSUBISHI PENCIL

制作期間

2024.09-11

使用ツール

Ai/Ps/LrC/Rhino/Fusion

素材

PLA・バネ・紙・ポンキーペンシル



イントロダクション

子どもの「ぬる」を、
もっと自由に。

NAZOKARA は「ぬってかく」という体験を通じて、子どもたちが偶然の発見や描く喜びを感じられるように設計された文具。

子どもの頃、色鉛筆を何本もまとめて持ち、同時に線を引こうとした経験、ありませんか？
いざやってみると、鉛筆がバラけて持ちにくかったり、色が揃わずうまく描けなかったりします。

そんな「できそうでできない遊び」を、誰もが簡単に楽しめるようにしたい。そこから開発が始まりました。

コンセプト

“ぬってかく = NURU + KAKU”

二重の行為を通じて、子どもたちが「描く = 観察する = 発見する」へと自然に変わっていく体験を。



※全2回に渡り、20名近くの子どもたちと
親御さんの協力のもと、試作を試してもらいました。



開発プロセス 01

初期段階では、同時に塗れる簡易ホルダーをいくつか試作。

しかし、鉛筆の長さが異なると、どれか1本が浮いたり、塗るときに力が分散してしまうという課題が...





バネを内部に組み込むと？



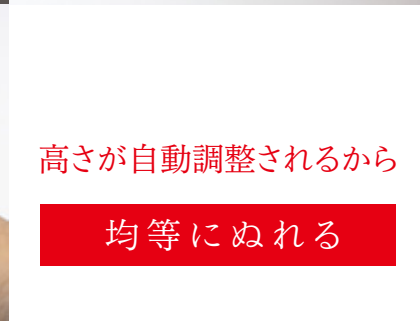
押し込んでも



前に倒しても



後に倒しても



高さが自動調整されるから

均等にぬれる



グリップが握れない...



凹んでるのは握りづらい...



ちょっと大きぐらいが
ガッチリ握める!

開発プロセス 02

「色が出にくい」「鉛筆が抜けちゃう」「いろんな方向で塗りたい」という子どもの声から、バネ構造を発想。
手に馴染む“使いたくなる文具”へと進化しました。

フロッタージュで生まれる、“世界にひとつの宝石”



フロッタージュで自分だけの 宝石かんむりを作ろう！

10 / SAT. 26

参加費無料

①10:00-11:00

②11:05-12:05

場所：デザインとアートの教室 りんごの森

対象：小学1-4年生

定員：①3名、②3名 計6名



1

好きな色鉛筆をセット



2

凹凸を見つけて上から塗る



3

色が重なり、
思いがけない模様が生まれる



4

ラベル紙に写した
模様を切り取って王冠に貼る



模様の写り方に「わあ！」と歓声を上げる子どもたち。
完成した王冠をかぶった瞬間の笑顔は NAZOKARA が自然に色を重ね、
発見を引き出したからこそ生まれたものでした。



わあ！



ワークショップの様子





まとめ。

ものをつくるだけでなく、「体験をデザインする」こと。それがこのプロジェクトで一番大切にしたことです。
NAZOKARA は、道具そのものが体験の入り口となり“描く＝発見する”という新しい学びをつくり出します。

04 Other work

Apis

小さな相棒と手ぶらで楽しむ1.5人旅

あしあと

高齢者に向けた、在宅中の安心・見守りサービス

デッサン・色彩構成



Apis

Orchestrating a brighter world

NEC

小さな相棒と
手ぶらで楽しむ
1.5 人旅



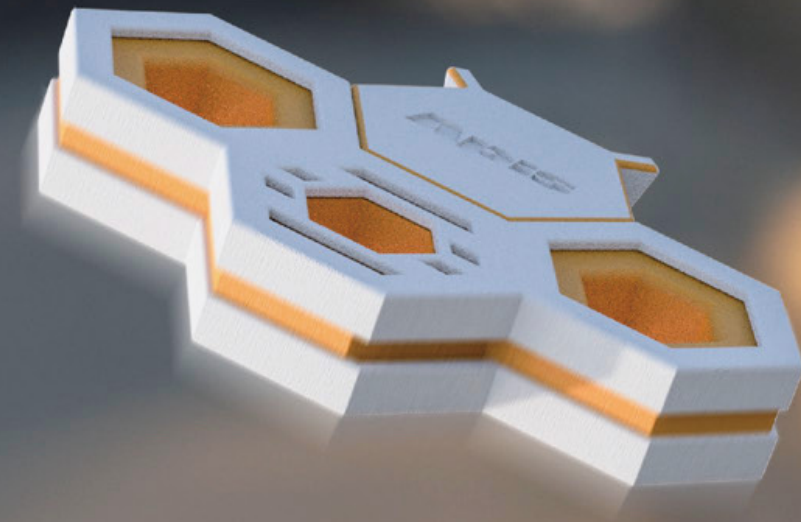
制作期間 2024.09-11

使用ツール Ai/Ps/LrC/Fusion

素材 PLA・ナイロン

◇ What is Apis ? ◇

Apis は、ウェアラブルドローンが旅のサポートをしてくれる“スマホを持たない旅”の新しい体験サービスです。



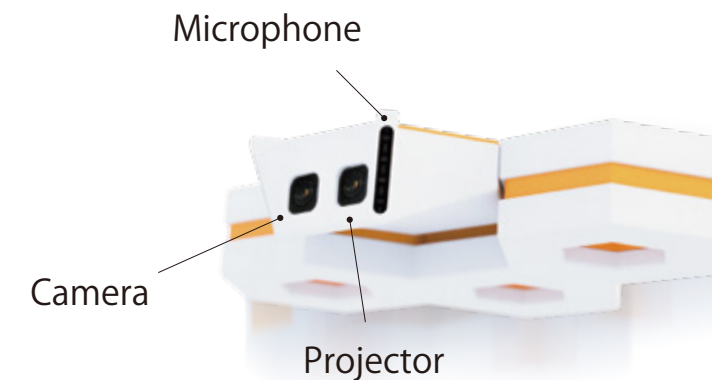
10年後の未来では...

デジタル・テクノロジーの更なる発展で豊かになった暮らし。同時にデジタルとの距離の近さが社会問題になっている。現時点で7割を超える人がその疲れを経験している点に着目し「日常化したデジタル疲れを癒すために旅が重要視される未来」という仮説を立てた。

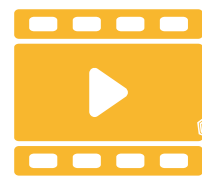
1.5 人旅とは



「1.5人旅」という言葉には、旅を完全に1人で楽しみたいわけではないけれど、誰かと行くことで自由が制約されるのを避けた。そんなときに「半歩後ろから見守りつつ、必要な場面でそっと手を差し伸べてくれる」存在。それがこの0.5、Apis。

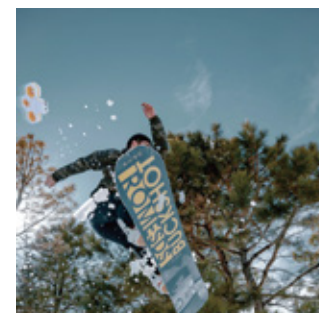


Function



自動撮影・録画

旅の体験中、Apisがあなたの代わりに、旅の思い出を写真や動画で記録します。



投影ナビゲーション

内蔵されたマイクに音声操作をし、手首を手前に傾けると手に情報が投影されます。



Cloud フォトアルバム

Apisが収集した写真や動画を自動でアルバムにして届け、帰宅後も旅の余韻を楽しめ次回も行きたくなる体験に繋がります。



Apisが描く、デジタル社会の新しい旅の形。

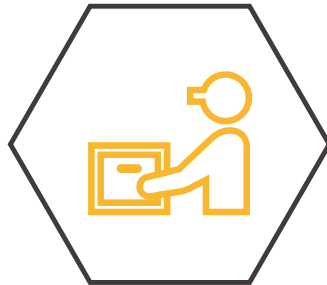
Apisを利用するまでの 3 STEP

STEP
01



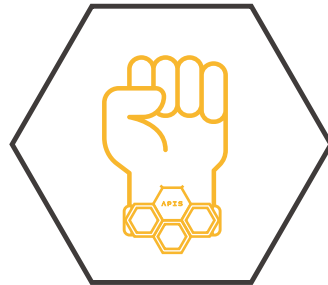
ツアーに 申し込む

STEP
02



家に 届く

STEP
03



装着し 旅に出る



Apisのデザインは「ミツバチ」から着想。

名前の由来



語源である「ハチミツを運ぶ」と蜂の言い伝え「幸運の象徴」から「人の幸せを運ぶ」という言葉になぞらえた。

ステークホルダー

旅行会社・カメラメーカー・交通機関との連携。

NECからのシステム支援でメーカーが設計

工場から旅行会社へ製品が納入され顧客に提供される想定。

交通機関

旅行会社

NEC

カメラメーカー

工場

旅行会社

01 時華

02 POUR ESSENCE

23
|
24

03 NAZOKARA

04 Other



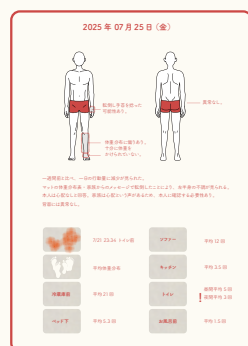
HITACHI

大切な人の気づけなかったを減らす、足元見守りサービス。

制作期間	2024.09-11
使用ツール	Ai/Ps/LrC/Rhino/Fusion/Keynote
素材	PLA・ABS・ケント紙

置くだけでいい

足元からそっと支える、見守りサービスを提案します。



コンセプト

見守られている安心を、見守られていないように届ける

「あしあと」は、在宅介護の中で「さりげない見守り」を叶えるマット型センサー。監視ではなく、「寄り添う安心」をデザインしました。

01 時華

02 POUR ESSENCE

25
|
26

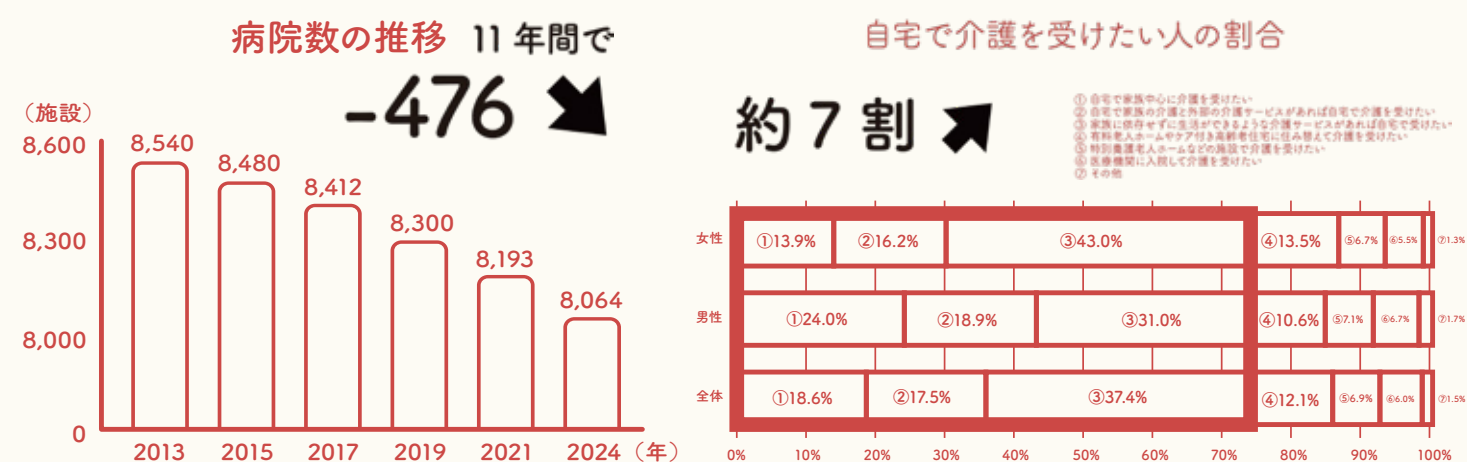
03 NAZOKARA

04 Other



見守るって、どこまで踏み込めばいい？

変わる介護のかたち。



住宅介護が当たり前になる未来が来る？

でも

家でどう見守るかの手段がまだ足りていないのでは？

一人暮らし



田中 和子さん（78歳）要支援1

- フレイルが進行。孫は大学へ進学し一人暮らし。
- 家では裸足派。膝痛と骨粗しょう症あり。
- 歩行器を併用しながら生活。外出は家族同伴。
- 冬は冷え、夏はむくみで履き物に困る。
- 「転倒が怖い」「蒸れるのが嫌」と感じて動くことを避けがち。

お互いを支え合う2人（老々介護状態）



加藤 清子さん（78歳）自立+夫の昭一さん（82歳）要介護1

- 老々介護の2人暮らし。孫が月に一度遊びに来る。
- 清子さんは人工関節でバランスが取りにくい。
- 昭一さんは軽度の認知症。清子さん自身も腰痛持ち。
- 脱げやすいスリッパで何度も転びかけた経験あり。
- 室内では靴は履かず、滑りやすい靴下や使い古しのスリッパが中心。

「カメラはイヤ」「でも心配」そんな家族の葛藤に気づいたとき、
“距離感を設計するプロダクト”が必要だと感じました。



サービスが果たす目的

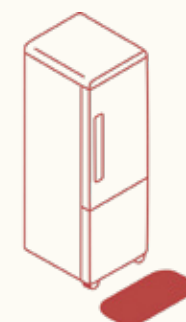
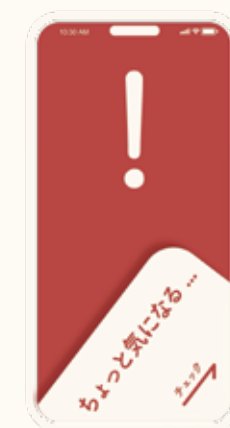
「大切なひとの“気づけなかった”を減らす」

👣 いつも通りなのにいろんなことがわかる 👣



7:00 朝、起き上がってトイレへ。

まだ身体が完全に目覚めていない時間帯。
マットが足の荷重バランスをそと記録し、転倒のリスクや“ふらつき傾向”のチェック。
ここで大きな偏りが見られた場合、アプリに「朝の動きが少し不安定です」と通知。



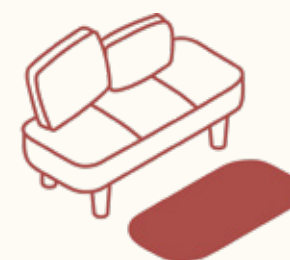
9:30 朝食を終え、冷蔵庫の前で薬を飲む。

朝の動線の中で、ちゃんと水分を取っているか？冷蔵庫前のマットが“立ち位置”や“回数”を記録。
いつもより少ないことが検知されると、家族に「食事を取れていない可能性あり」のサイン通知。



14:00 お昼寝から起きた後、再びトイレへ。

通知は家族だけでなく、かかりつけ医の判断材料にも。よう専門的なデータをPDFに。



18:00 夕食前に、ソファに少し腰掛け。

いつもなら10分程度の動作が、今日はほぼなかった。
その記録が連日続くと、アプリが「日中の活動量が減っています」と静かにお知らせ。



これなら、母にも使わせてみたい。

家族に向けたリーフレット制作

あしあと

在宅中の安心・見守りサービス

月額 980 円から

S サイズ 20cm×25cm
M サイズ 25cm×30cm
L サイズ 30cm×35cm

足元からずっと支える
見守りサービスを提案します。

あったか足元機能

足まわりも安心
防水設計

つまづき防止
なめらか滑り止め

月額 980 円

つながる。

「あしあと」は、在宅中の安心・見守りサービスを提供します。

ご本人
家族
医療やケアマネとも連携
ケアマネ・医師
病院・医師

守れる。

「あしあと」は、在宅中の安心・見守りサービスを提供します。

置くだけでいい

足元からずっと支える
見守りサービスを提案します。

あしあと

在宅中の安心・見守りサービス

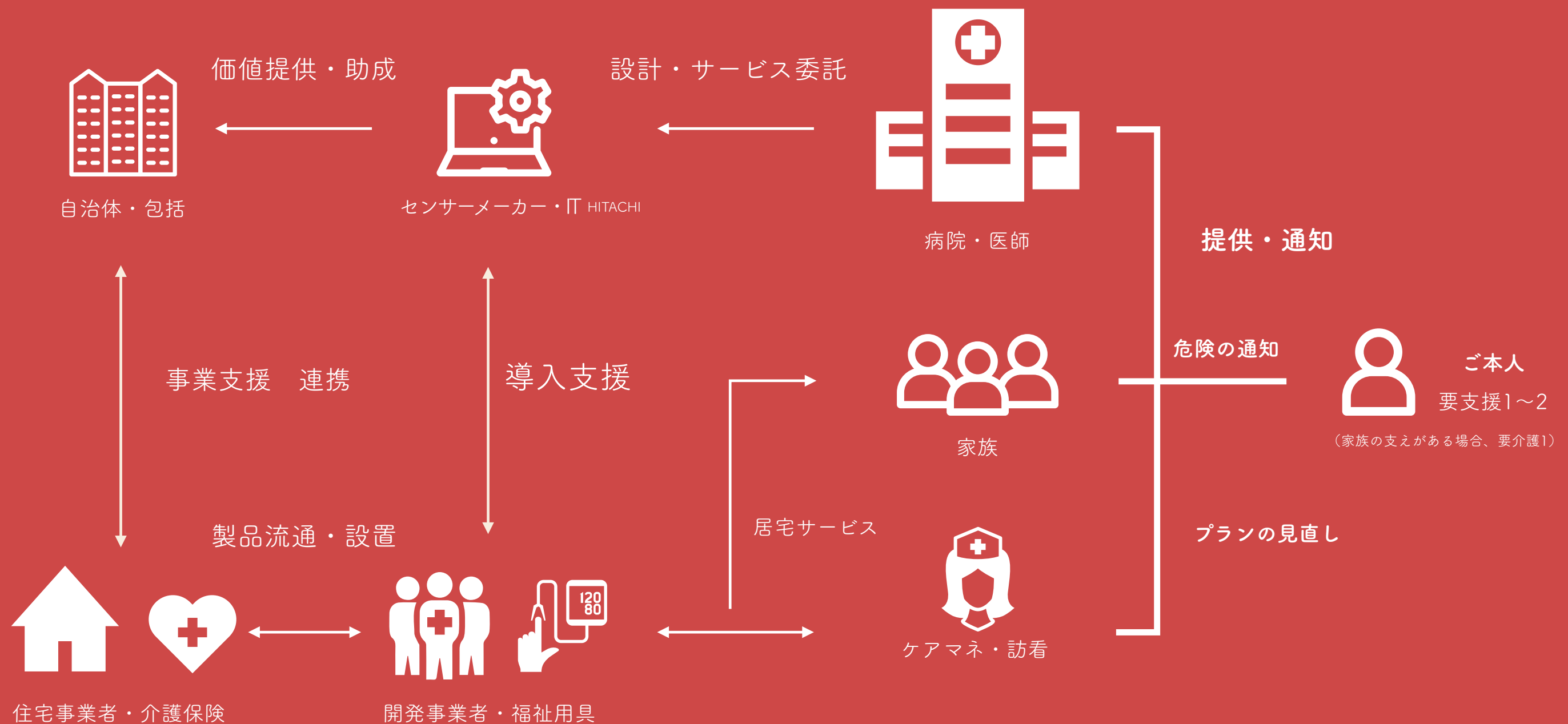
気づける。

在宅中の安心・見守りサービス

こんな風に思ったこと、ありませんか？

- 離れて暮らす母の体調が心配。でも見守りカメラは嫌がられる
- 電話しても「元気だよ」しか言わないけど、本当？
- 夜中にトイレで倒れたら... と思うと、不安で寝られない

そこで！



マットを通じた「トータルソリューション」に。

「見守り・データ活用・医療連携・家族通知」の一連の仕組み。自治体、医療機関、福祉団体との連携をしやすい。

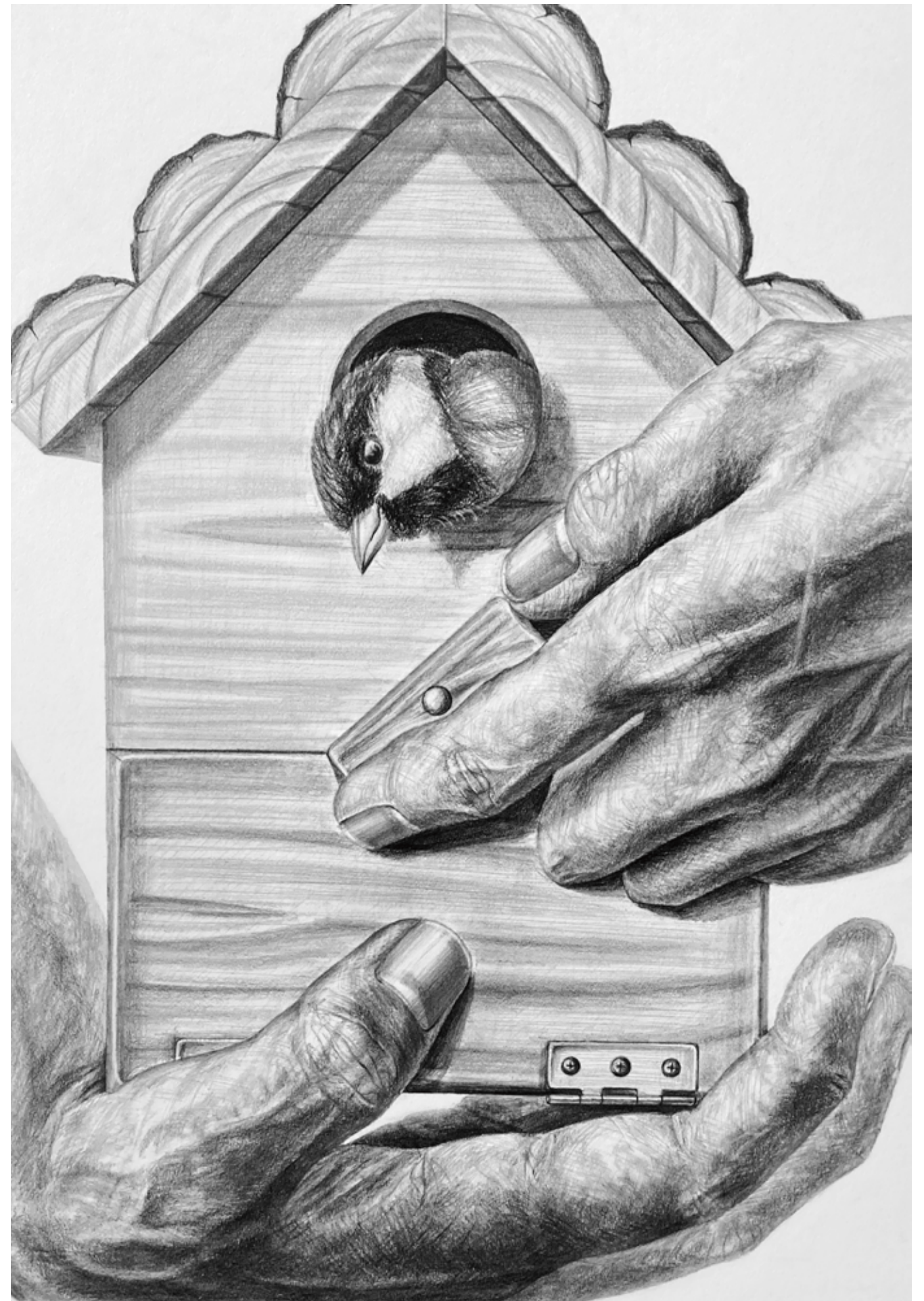
データが家族と医療をつなぎ、

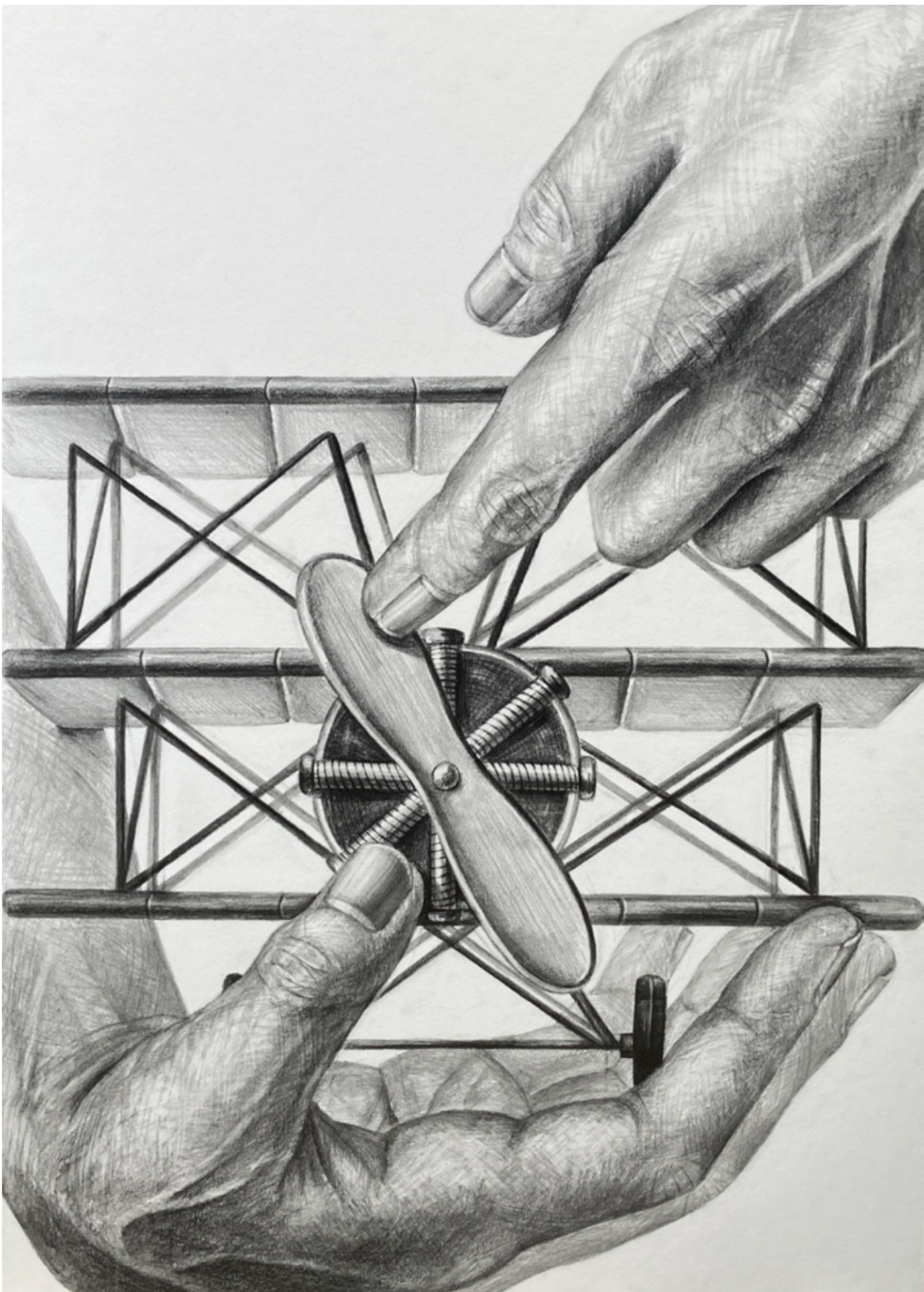
それぞれの安心が、地域の支え合いに変わっていく。

“あしあと”は、やさしい連携の形を目指しています。

形に触れ、線で語る。

デッサンを始める前には必ず「実物の観察」を意識していました。
実際に触り、対象の構造や質感を整理していくことで、プロダクト
では光の反射や素材の違い、手は動作や力の方向を明確にし、
そのものらしさを表現して描いていました。





01 時華

02 POUR ESSENCE

31
|
32

03 NAZOKAKA

04 Other

形を見つめ、面で整理する。

デッサンでは、形の構造と動きを意識しました。平面構成では、その観察をもとに、形・色・余白の関係性を整理し、画面全体で見ただけでどんなシーンかがわかるワクワクさせるような瞬間を捉えていくことを重視していました。



